

2007.1

No.711

平成19年1月17日発行

岩手県●紫波町

〒028-3390 紫波町日詰字西裏23-1

担当/企画課 TEL:019-672-2111

印刷●川口印刷工業株式会社

ポータルサイト <http://www.town.shiwa.iwate.jp/>

SHIWA-NET

しわネット



●新春町長メッセージ

「みんなで作るまち」を目指して

●特集

フェロー懇談会が提言

こうなると、もつとよい町に

しわフェロー2005-2006報告

TOPICS ◆ 農業振興大会

農業賞4団体と5人が受賞

TOPICS ◆ 食育フォーラム

「食から見えるくる本当の豊かさ」

●新しい町の本、入りました……………8

●新・環のくに……………12

水のゆくえ「森と水循環講座」ご案内……………16

●GO!GO!公民館……………17

赤沢公民館／赤石公民館……………20

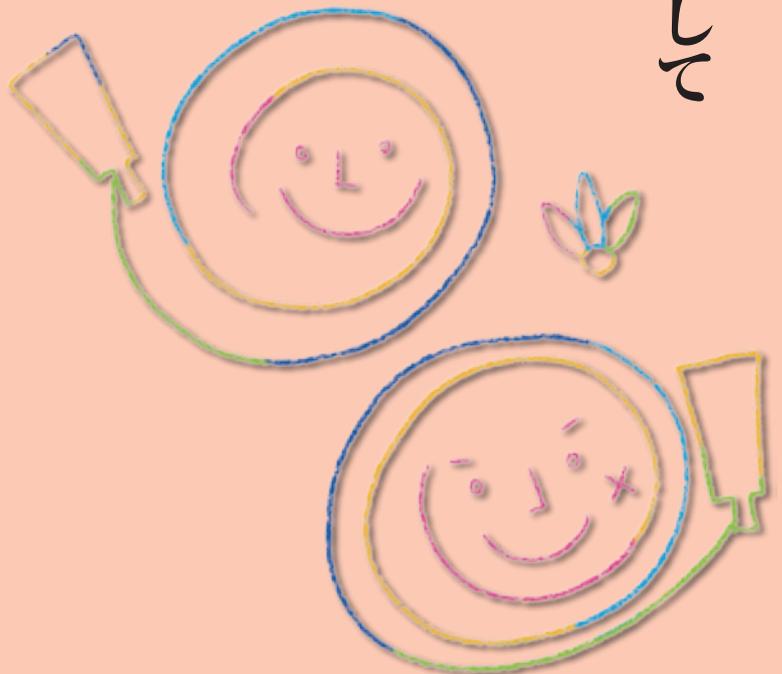
●暮らしの健康メモ……………17

「家庭で実践!ノロウイルス予防策」……………17

健康レシピ／おからがんも

行ってみよう!

ゆいっとサロン……………20



新春 町長メッセージ

新年あけましておめでとうございます。
今年の干支は、丁亥、十二支では「亥」、猪の年で、十月の「亥の日」にもちを食べれば万病を除くと言われ、わが町の特産品「もち」を食べ、ますます健康になる絶好な年になりますことをお祈り申し上げます。

昨年を顧みますと、三月に姉妹都市であるスタンソープを佐比内金山太鼓のメンバーが訪問し、二年に一度行われるフェスティバルに参加して参りました。地元テレビや新聞に大々的に報道され、市民と一体となった熱演によって、心の触れ合いと感動を共にし、熱い心の絆がはぐくまれたようです。和太鼓を通じて素晴らしい交流ができたとの報告を受け、あらためて芸術には国境も言葉の垣根もないという感銘を得ました。

六月には、岩手県植樹祭が佐比内内で実施されました。例年であれば整地された林地を会場にするのですが、今回は、過去に不法造成によって表土が削られ、何年たつても草木が植生しなかった場所を地ごしらえし、過去になかった林地再生に向けての植樹祭としました。その地は、「千年の森」として後世に継いで参ります。

七月には、岩手県立大学と「包括的連携に関する協定書」を締結しました。産学官の連携で実践的学習の場を町が提供し、町の政策課題を共に研究し、交流する取り組みを図っております。

九月には、前年に醸造したワインを新発売しました。ワイン専用種で醸造した一万本の限られた量でしたが、年々増産し、近い将来、内発型産業として定着させるための初年度でありました。

さらに同月、古くから酒造りを通じての交流があつた古殿町と姉妹都市を締結しました。先に取り交わした大規模災害時の相互応援協定にとどまらず、持続的に自立できる行財政確立などの共通認識を持つて、共に発展できる親交を深めて参ります。

十二月には、住民基本台帳カードを使って住民票の写しをはじめとする四つの証明書を発行する自動交付機を設置しました。朝八時半から夜八時まで役場のロビーで利用できます。利便性と事務の合理化に向けて実施したものです。

今年の干支「猪」は「猪突猛進」のいわれがありますが、あえて「猪突考進」で、いわゆる考えながら進む年にしたいと思います。

「みんなで創造するまち」
を目指して

す。「みんなが創造するまち」を目指し、仮称紫波町市民参加条例の策定に向け、多数の町民の参加のもと、「参加条例つくり委員会」を設立しました。住民と行政が協働する基本ルールを条例化することに向けて議論を重ねております。昨年のまちづくり座談会で行った〇×アンケートの結果も貴重な資料となっております。

図書館をつくりたい委員会との議論も終盤に入り、準備委員会を設立したところでもあります。多くの意見が反映されつつ紫波町らしい施設の完成を目指していきます。

今までは、町民と行政の連携として、「公」と「民」が、それぞれの領域で経済活動を行って来たのですが、今後は公と民が、相互理解を深めながら事業展開する時代が到来すると思われれます。基本となるのは、徹底した情報開示と住民の監視機能充実が前提にあるでしょう。当町も民間資金を活用した合併浄化槽事業で事業開始し、今後は火葬場建設でも民活で事業推進を検討中であります。

食育推進では、地産地消を通じて正しい食生活の推進を図るため、学校給食での自給率向上により、食に対する正しい意義を喚起させ、健全な子どもたちの育成に力を入れております。また、食育を

通じて健康に留意する方々の拡大を図るため、有識者を交えた食育推進会議を設立しました。本年度からは、これを基に食育推進策定委員会を設立し、広く浸透するようにいたします。

昨年十月には、こども室を新設いたしました。年々低下する出生率が心配です。地域に子どもが居ないことが地域の衰退につながります。地方自治体としては課題が重なりますが、避けてはならない問題で、子育て支援に向けてその「在り方」を模索しながら、町民の皆様アンケート調査をするなど、課題を絞り事業を展開して参ります。

地方分権が進行し、地方自治体が自らの責任を問われ、財政破綻法が取りざたされる中で、地方交付税も大幅減額されることが明確になってきました。「持続的に自立できる町の行財政計画」を基本としてさらなる発展を目指す町としては、町民皆様と職員が一体となり、英知を出し合い、輝かしい年にしたいものと期待してやみません。半世紀を超えてなお、「新たな町」として歩み続けることをお誓い申し上げます。申し上げ、新年を迎えるのメッセージいたします。

町民の皆様、今年もよろしくお願ひ申し上げます。

藤原 孝

水分地区のソバ畑

紫波町特産品のソバは、転作用として、水分、志和、長岡などで多く栽培されています。

毎年7月下旬に植えられ、約1ヵ月で花が咲き、9月中は一面の白い花を楽しむことができます。

18年の町内総作付面積は124ha、生産量は99t。多くは町外に出荷されますが、町内では「稲一そば」の手打ちそばや、乾そば、焼酎などに加工、販売されています。

「しわフェロー」もつとよい町に

—しわフェロー— 2005-2006報告 —



18年11月に行われた懇談会の様子

「しわフェロー」は、公募によって集まったまちづくりを考えるボランティア組織です。紫波町経営品質会議が行うまちづくりに参画し、町政モニターとして町民と行政の協働のまちづくりを目指して、町の課題解決に取り組んでいます。

二年目を迎えた昨年の十一月には、八回目の懇談会が開かれました。今月は、そのしわフェローでの報告と話し合いの内容をお伝えしながら、皆さんと一緒に、これからの紫波町のまちづくりを考えていきます。

町の観光・交流

町を愛する基礎づくりを目指した事業

十二月三日、午後一時に始まった懇談会には、経営品質会議委員や公募と推薦による町民の皆さん、十七人が集まりました。勤めを退職された人、農業、会社役員、栄養士、自営業者など職種も多様。それぞれの立場や視点から、「町の観光」と、十月から専門部署として設置したこども室で取り組む「少子社会」について話し合われました。

懇談会では、最初に、これまでの話し合いの中から生まれた数々の提言に対し、平成十七、十八年度に、町が実際に取り組んできた内容を事務局が報告しました。「自分たちが町を知ること、その魅力をみんなに伝えたい」と、そんな意見を受け、町民への情報発信を中心にさまざまな事業を行いました。



18年5月の町民バスツアー



18年夏まつり

知ることでも知らせたくなる、地元学から町を愛する雰囲気づくりと、よさを伝える情報発信！

テーマ

—前回—皆さんからの **提言**

- 紫波ネットに町内名勝の紹介をしてはどうか
- 独自の目をひくパンフレットを作り、人目につく

17年の **状況**

- 賢治の友人「かとうじ物語」10回連載
- 施設・特産品別パンフ町内では主に役場・

現在の **成果**

- 広報の裏表紙にシリーズで、町のスポットなどを紹介
- 町のパンフレット「シワナビ」は、観光モデルコースや

受け入れのネットワークと組織づくり	受け入れの事業展開	情報の発信
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもに町の魅力を伝え、将来町の広報マンとして期待 ● 町民を対象に観光交流ガイド育成を ● 若い人を対象に、楽しめる温泉・体験施設の充実を ● 町外ではなく、町民を対象にポイントを絞ったきめ細かい対応でリピーター獲得を期待 ● 農作業期間中も施設ボランティアがいればいつでもOK ● 観光は人が人の良さを伝える事が大切 	<p>受け入れの事業展開</p> <ul style="list-style-type: none"> ● もち料理や名物を食べる店があったらいい ● 今あるものを大切に。自然環境の循環を進める紫波町の魅力はその町にも伝わる ● 町の魅力を伝えるため「ドウ・リン」狩り体験ツアー、町を東西にコース設定、源義経をいかした歴史ツアーを企画してはツアーは交通手段のない人にとって楽しみ ● 山屋田植踊りや金山太鼓を見る機会がない ● 子どもは、よその町の人を受け入れることで自分や自分の町を知ることができる 	<p>情報の発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ● どのように置いてみては ● 分かりやすい社会化副読本「わたしたちの紫波町」を買い求めやすくしては ● 文化的価値ある南部杜氏記録を本にしてほしい ● 交通基点に町案内の看板を建てては 
<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもを対象にみらい研究所でデジカメ探検隊(川下り体験) ● H16年度交流ボランティア立ち上げ  	<ul style="list-style-type: none"> ● もち料理は、古館の高福、小昼ハウス、ラ・フランス温泉館などで販売 ● 自然環境学習は、紫波みらい研究所H16年度視察28団体272人、環境探検隊67人 ● H16年は仙台・盛岡からのバスツアーと町民対象に秋・冬ツアーを開催 ● 赤石公民館で講演会「義経と平泉そして赤沢」講師 金野静一氏 ● 大槌町ふるさと交流、スポーツの交流 	<ul style="list-style-type: none"> ● 温泉館で配布 ● 教育委員会・町民課で販売1,800円 ● H11年「咲け日本の酒」南杜協会で発行 ● 町案内看板は、日詰・古館駅、城山公園、山王海ダムに設置 
<ul style="list-style-type: none"> ■ 紫波町観光交流協会が事務局を(株)よんりん舎に移管し、民間主導で事業実施型の協会に転換。冬まつり、三鉄ツアー、観光ハガキの販売と新しい試みを実施 ■ 観光交流ボランティア「じゃ・べる」がバスツアーや、桜まつりなどで町内の魅力を宣伝 ■ ヒノヤ、紫波、日詰タクシーの協力で、町外客に対応した観光タクシーモデルコースを作成 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 今まで無かった冬のお祭り「紫波冬まつり」を開催 ■ 城山桜まつり 27,000人来場 ■ 夏まつり 10,000人来場 ■ フルーツの里まつり 9,481人来場 ■ 産業まつり 26,605人来場 ■ 観光交流協会に委託し、町民から県外客まで趣向を変えたさまざまなバスツアーを展開。民間主催のツアーも誘致し、弘前からは1,904人来場 ■ H18年9月にラ・フランス温泉館では、集客の増加を図るため、リニューアル ■ 自醸ワインの発売は、町民が愛着を持っていつでも地元ワインを飲めるようにと生産者の熱意から実現。発売記念のワインまつりには約2,000人が来場 ■ 稲藤一のそば設立5周年を記念して「新そば祭」が開催され、大勢の人が来町 ■ 山屋水芭蕉まつり、是信房のお花畑まつり、佐比内金山祭など、地域をあげてのイベントを開催 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 地図、特産品を掲載し、町内各地に設置(19年度改訂予定) ■ ホームページ「紫波町観光交流案内」で情報配信 ■ 各駅「観光マップ」を年内に掲示予定 ■ (株)よんりん舎が行う紫波トークセッションが情報紙「Salon de Shizawa」を発行し、町広報誌折り込みで提供 ■ (株)紫波まちづくり企画が、情報誌「A.O」を町外向けに1万5千部、年3回発行

平成17年しわフェロー懇談会から

平成18年しわフェロー懇談会から



南日詰の五郎沼 (18年5月)

町の観光

町民自らが楽しめる観光が本物。 支援体制や基礎づくりにも力を入れてほしい

これまでの事業を説明した後は、二つのグループに分かれての話し合いとなりました。今回のテーマは、平成十七年からの大テーマである「町の観光」と、十月から企画課内に設置した「子ども室」のテーマである「少子社会」です。

委員が進行役を務め、それぞれの考えをまとめる形式で進められました。

発言は、ホワイトボードに領域をわけながら記入され、全体を把握しながら意見が交わされました。

最後は、また全員が集まり、それぞれのグループの進行役が話し合いの内容を発表。双方が視点の違いを比較検討し合い、全体の方向を確認しました。

町では、これらの意見を参考に、今後のまちづくりにも反映させていきます。



虹の保育園「赤ちゃん広場」

少子社会を考える

現状

- 出生率よりも出生実数が減っている
- 周囲には独身者が多い
- 出会いの場や時間が少ない
- 結婚すれば八割が二人以上生む
- 三世代率が高い福井県は出生率も高い

子育て環境の
変化

- 昔は生めば地域みんなで育てていた
- 地域力の低下、昔は年寄りが育てた
- おばあさんの力が良かった
- 昔の家族制度が良かった
- お母さん同士が自然に会える空間が減少

町民が
町のことを
知る

- まず町民が町を知らないといけない
- 町民が町を知るための体制も整っていない
- 町の目玉と言える観光拠点が分からない
- 町の財産や自慢できることは何か
- 学校の授業で取り入れる
- 遠足は町を知る機会にする
- 交流や体験学習を通じて知ってもらう

町に
誇りを持つ

- 町に生まれて良かったと語れる人を増やしたい
- 町民が町を大切にする意識がほしい
- 情報発信量が少ないので、町の良いものが知られていない

- 観光は総合力、体制づくりを強化
- パンフレットを活用
- 看板は、JR駅よりも道の駅が効果的
- ストーリー性を持った宣伝
- 平泉と紫波町の関連を生かす
- 少々オーバーでも良い
- 人を呼ぶこと、知ることを広報誌で紹介

効果的な
情報発信を

- イベントよりあるものを活用しては
- ほかの町では、空き家を商店として活用
- 自然を生かしたイベント企画で、町の自然を感じてもらおう
- 身近な資源を発掘してみる

自然や
今あるものを
活用する

- 地域の人を楽しめることが大切
- 楽しさの印象付けをする
- 地元で使われていなければ良品と言えず、ブランドと言えない
- 家庭でもちを食べていない現実

町民が
楽しめてこそ
本物

- 100年後に残したい風景画を募集しカレンダーにする
- 町民文化の日をつくる
- 特産品を知る機会を作る
- 音楽の町づくり(異聖歌、あらいえびす、嘉藤治)
- ぐらしの道ゾーンは昭和の道へくつ

新たな
発想

- 若い人たちが集まる場所がない
- バスツアーのリング採り体験で5個限定には不満
- ワインまつりで試飲の量が少なかった

現状に
疑問



町指定文化財「武田家住宅」

町民一人ひとりが町のことをよく知り、誇りを持ち、自然を生かしながら何かに親しみ楽しんでいる姿を効果的に情報発信することが、町の観光へとつながるのではないのでしょうか。

- やりたいことができなくなった
- 心身の支えがないと生む気になれない
- 共働きは子どもを預ける必要がある

子育ての
現実

- 女性の自立を子育てが妨げる
- 子育てできる職場環境が整っていない
- 親が同居を拒否している場合がある
- 子育てにお金がかかりすぎる
- 楽しいはずの子育てが苦痛になっている
- 仕事が忙しい

なぜ
生めないのか

- 出会える仕組みを作る
- 子を持つ親同士が見合いをする
- 男女ともに教育が必要
- 二人で暮らすことに夢があるということ
- を発信できる先輩でありたい
- 積極的に税金を投入する
- 自分に自信を持ってもらう

結婚して
もらうために

- 子どもを預かる母親グループを育成する
- 子どものためにもっと税金を使わすべき
- 地域で子どもを大切にすることを育てる

生んで
もらうために

- 紫波町息抜きマップを作る
- 未婚者が出会うイベントは、必ず参加させるシステムを作る
- 地域力や家族の支えなど、子育て環境について教育する

新たな
発想

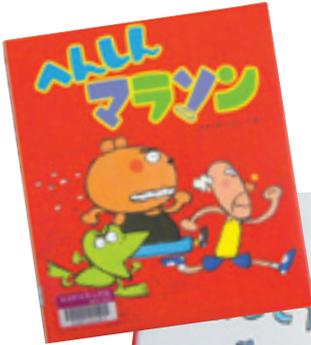


出生数が減り、独身者が増えている現状で、家族の形態も変化し、子育てする環境は昔より厳しいものとなっています。子育てや男女の出会いに対する支援体制や環境づくりが必要です。

へんしんマラソン

あきやまただし／金の星社

せかいいちふしぎなマラソンたいかい。このマラソンたいかいではしると、なぜかみんなへんしんしちゃうんです。



◆つぎは、なににへんしんするのか…ページをめくるのがたのしい。(T・H)



ママがおこるとかなしいの

せがわふみこ／金の星社

～しなさい、～してはいけません…子どもが悩んでいるときや問題をかかえているときに、そんな言葉かけが多くなっていませんか？



◆子育て中のママに読んで欲しい本です。(匿名)



千の風になって ちひろの空

新井満／講談社

大切な人を亡くしたとき…悲しみをこえて生きる勇気を与えてくれる“いのちの詩”に、ちひろの絵がつきました。ページをめくっているうちに、風は宇宙ではなく、すぐそばを吹いていることに気がつくでしょう。



◆先日、ラジオ放送でこの本の著者のお話を聞き感動しました。とても良い本だと思います。(T・U)

こころを育てる、
知性をはぐくむ
読書のひとときを



新しい町の本、 入りました。

●●●●●●●●●● いい本選ぶ会 ●●●●●●●●●●

平成18年11月4日、中央公民館で「いい本選ぶ会」が開催され、125冊の本が選ばれました。みなさんに選ばれたすてきな本の中から次の15冊をご紹介します。

問合せ●中央公民館 672-3372

あるいてゆこう—おさんぽえほん〈1〉

五味太郎／ポプラ社

とてもきもちのいいひ。にわとりさんたちおさんぽです。いつしよにならんであるいてゆきましょう。絵を背景に歩かせる人形つきの絵本。



◆親子の会話がはずみそう。(H・F)

俳句の魚菜図鑑

復本一郎／柏書房

旬の食材と俳句の絶妙なコラボレーション。

◆旬の魚菜の説明などがあり、全ページカラーで見やすい。(J・A)



ふつうに学校に行くふつうの日

コリン・マクノートン／小峰書店

ふつうに学校に行くふつうの日。ふつうの男の子は、ふつうの学校にでかけました。ふつうの教室にはいて、ふつうの席につくと…。

◆「ふつう」の生活にある“おどろき”や“発見”それを体験していくことの大切さをさりげなく気付かせてくれる。(T・K)



声にだすことばえほん—春はあけぼの—

清少納言／ほるぷ出版

四季の美しさを表現した清少納言の言葉が、春・夏・秋・冬それぞれの景色を楽しみながら、声に出して読めるかわいい絵本になりました。

◆絵をながめながら、わかりやすく清少納言の物語の様子を感じることができる。(M・S)



パイレーツ図鑑—歴史のなかの海賊たち

ジョン・マッシュューズ／岩崎書店

覚悟はいいか。ここから先は、邪悪な海賊たちの世界だ。血ぬられた陰謀と冒険の物語。

◆ダイヤがほしい。しかけがいっぱいで楽しそう。(K・H)



実物大 恐竜図鑑

デヴィッド・ベルゲン／小峰書店

幅1メートルをこえるティラノサウルスの口から、手のひらにのるぐらいのブルガトリウスまで、恐竜と同時代の生物計27点の実物大イラストを収録。

◆孫が恐竜に興味をもっているの。(I・M)



らくだい魔女はプリセス

成田サトコ／ポプラ社

あたし、フウカ！ れっきとした現役魔女よ！ いつもまじめに修行してるんだけど、どっか失敗しちゃうんだよね～。第一回Dreamスマッシュ！大賞受賞作。

◆著者が岩手在住の若手作家なので興味があつた。(S・A)



三つの都の物語

塩野七生／朝日新聞社

16世紀前半、超大国におびやかされるルネサンスを代表する三つの都市ヴェネツィア・フィレンツェ・ローマが優雅に衰えつつ、迎える運命…。

◆作家を尊敬している。(M・O)



もりおかのガキ大将

「もりおかのガキ大将」編集委員会／杜陵高速印刷

盛岡市民福祉バンク会長、いきいき牧場理事長、盛岡マニラ育英会会長、盛岡世代にかける橋代表だった馬場勝彦さんからのメッセージ。仲間たちの声や応援団からの寄稿も掲載。

◆若い頃からボランティア活動に徹したすばらしい人生の人。(R・S)



たった一度の人生だから

日野原重明・星野富弘／いのちのことは社フォレストブックス

人生のターニングポイントは何だったのか。人生を充実させる秘訣は何か。この時代を生きる私たちに、あたたかい励ましと希望を与えてくれる。

◆二人とも命を大切にし、生きることのすばらしさを持っている方々。ぜひ読みたいし、読んでいただきたい。(I・M)



着物あとさき

青木玉／新潮社

祖父、露伴愛用の羽織を今に活かし、母、文が残した白生地にやさしい色を挿す。確かな技術を持つ職人さんに支えられ着物は五十年、百年をいきる。

◆一枚の布への想いを大切にということばにひかれて…。(E・O)



米寿快談—俳句・短歌・いのち

金子兜太・鶴見和子／藤原書店

米寿を前に初めて出会った二人が、定型詩の世界に自由闊達に遊び、永遠の少年少女の如く語らう中で、いつしか生きることの色つやがにじみだす、円熟の対話。

◆著者は一風かわっている人、おもしろそう。(K・I)



啄木資料展のご案内

県立図書館で10/27～11/19に開催された同資料展を展示します。

期 間●1月26日(金)～2月4日(日)ただし1月29日(月)は休館

会 場●中央公民館 図書室

時 間●平日 午前9時～午後4時30分

土日 午前9時～午後4時00分

農業賞4団体と5人が受賞

十二月二十三日(祝)に

J A岩手中央本所を会場に農業振興大会が開催され、

農業賞の表彰式が行われました。

会場には、岩手中央農協紫波地域女性部による

地産地消手作り料理や、特産品の販売、

野菜などを使った「農の生け花」などが展示されました。

同日開催された食育フォーラムでは、基調講演や、

食育に取り組む団体の事例発表が行われ、

約二百五十人の来場者が理解を深めました。



食育フォーラム

基調講演

食から見えてくる本当の豊かさ

島村 菜津

スローフードの心とは

私は食することが大好きな一人の普通のお母さんです。ただ、典型的な西洋大好き人間で、何度もイタリアに通いました。そのことが、スローフード哲学と日本の食へのことを学ぶきっかけとなりました。

イタリアでは、専門店に活気があり、量販店はほとんどありません。市場の店先で、果物に傷や虫食いがあっ

ても文句を言う人もなく、それが当たり前でしかもおいしいのです。

日本の都会の子どもたちの環境を見ると、町にはファストフード店があふれ、食への選択肢がありません。しかもその材料のほとんどが外国産です。スローフードとは、その人がその人の思いで食べ物を選ぶこと。多様な味が息づいている食生活を大切にしようということです。紫波町の夏にしか味わえない味や、紫波町の冬にそのお母さん



第10回 紫波町農業賞受賞者

営農部門 ● 西田 守(升沢)
松田公夫(犬渕)
サントリーホップ生産組合(組合長 藤代金一)
(有)紫波観光ぶどう園(代表取締役 高橋敬次)

むらづくり活動部門 ● 長岡産直組合(組合長 佐々木清人)

功労部門 ● 高橋節也(南伝法寺)
阿部京子(星山)

青年農業奨励部門 ● 北田弘行(江柄)

特別賞 ● 稲藤第一農産加工組合
(組合長 小田中あや子)

受賞者の中からスローフード運動とも言える活動を続けている阿部さんにお話を伺いました。「これからの町を受け継ぐ子どもたちには、家族同様に健康であって欲しいと思い20年前から給食センターに地元食材を出荷してきました。地域の皆さんや家族の協力があっての受賞です」と感謝していました。

受賞された皆さん、おめでとうございます。



しか作れない味。そのレベルの多様な味を大切にしていきたいというのがスローフードの本当の心です。

地元の農家を大切に、その郷土を自慢できる

イタリア人は、小さい生産者である農家を大切にしています。作る大変さを理解し、その価値に見合う値段で買います。質のいいものを作ってくれる小さな生産

者が、わたしたちの体を支える人で、農家が大変だから支えるのではなく、自分のために農家を支えるのです。

イタリアの山間部、トスカーナ地方には小さな農家で採れた地物だけを売る食材屋があります。店主は生産者やその土地のことをよく知り、郷土自慢をいわせれば話しがやみません。その町の豊かさが見える入り口のようなお店で、こんな人がたくさんいるのがイタリアの底力です。

子どもたちを中心とした味の教育

イタリアでは、食育の授業に詩人や画家、音楽や理科の先生などがかわります。味覚だけでなく、文化そのものとして教育するのです。食文化は、コミュニケーションツールとしても大きい力を発揮します。ある学校で、インド人の子どもがカレーくさいといじめられ、先生は、その子の母親を講師にインド料理の食育授業を行いました。インドの食文化に理解を深めた子どもたちは二度といじめなくなったそうです。

また、子どもに昔話の桃太郎や童話の赤とんぼなどを聞かせるときに、出てくる景色はどこまで残されるのだろうかと考えるてしまいます。懐かしいと思うような原風景



なつ菜津
しまむら 島村
福岡県生まれ。東京芸術大学美術学部卒業
ノンフィクション作家。イタリアで長期にわたる取材活動を通して、スローフード運動を日本に紹介した立役者。(主な著書)「フレンチ工連続殺人」、「スローフードな人生」、「スローフードな日本」など

景は、いい物作りをしている農村や漁村のくらしの中に作られてきました。わたしたちがそこでできたものを食べ続けていけば、その風景を残すことができます。地元のものを食べるといことは、そういう意味も含まれます。

地元だからこそ 地元の食材を使おう

さて、北イタリアのテリオという村では、そばパスタを食べる食文化があります。しかし、原料のそばは安いという理由で中国産を使っているのだそうです。このように特産物と、地元の風景が一致していないという現象が世界中で起きています。ここ三十〜四十年の出来事なので、今から考え方さえ変えれば元に戻せると思います。

イタリアを題材とした本を書いて、次に日本のことを調べたら、私たちの食生活に欠かせないしょうゆやみその原料である大豆は自給率が三パーセント以下でした。しかも輸入する大豆の八十パーセント近くが遺伝子組み換えです。その大豆で作られた豆腐が一パック四十円として、国産大豆で作った豆腐が百五十円だったら、子どもの体を考えれば全然高くありません。

紫波町では食料の自給率は百八パーセントですが、それを徹底的に極めて欲しいです。余ったものはほかに売ってもいいですが、まず地元が百パーセント地元のものを使うことが大切です。

自分の食生活を確かめてみてください。冷蔵庫を開けて見れば簡単です。例えば、パンの材料である小麦が外国産なら、南部小麦を使ったパンを買うのもいいでしょう。意外に忘れてるのが調味料です。国内では大手数社がほぼ独占状態ですが、調味料を地元で自給す



るといふ新しい産業の可能性もあります。

紫波町はすごい町なので、紫波町からスローフードな情報を発信してほしいです。百年後を考えたNPOもあるようですし、具体的なものはもう見えていると思うので、百年後が楽しみです。

東京で暮らす人は、東京は子育てするところではないと思いはじめています。同じく東京で働く人や勉強する人も何か違うと感じています。子どもをのびのびと育てられる環境とは何だろうと考えたとき、「紫波町に行けばヒントがあるよ」と言われるような町にしたいなと思います。

森も、水も、みんな町の財産。この豊かな自然を守り続けよう！

水のゆくえ〜「森と水循環講座」

『紫波・森と水の物語 語らいとコンサートの午後』

日時●1月27日(土)午後1時から 会場●野村胡堂あらえびす記念館ホール

町では、NPO法人地域パートナーシップ支援センターとの共催で、これまで六回の「森と水循環講座」を開催してきました。最終となる第七回目は、「紫波・森と水の物語 語らいとコンサートの午後」と題し、三部構成で開催します。この講座は、森と水の関わりを学び、森林と水環境保全に関する意識を高め、さらに行動することをねらいとして行っていますので、皆さんお誘いあわせの上、お気軽にお出かけください。



第1回講座の様子



心花～kokohana～

第1部 水のゆくえ
〜森と水パネルディスカッション

私たちの命をはぐくむ森と水をよりよい姿で子どもたちに引き継ぐために、今私たちができることについて、ともに考えます。

第2部 水の調べ
〜心花コンサート

二十五絃箏ユニット
「心花～kokohana～」による
コンサートです。

第3部 水がたなぐ地域・人・心
〜紫波町から
沖縄へのメッセージ

森と水循環、さらに循環型まちづくりについて紫波町からのメッセージを発信します。
※入場は無料。満席となった場合は入場をお断りすることがあります。
ご了承ください。

『マザー・ウォーター・プロジェクト作品展』

日時●1月27日(土)から2月4日(日) 会場●野村胡堂あらえびす記念館

町内の子どもたちが描いた水の大切さを訴えるアートやメッセージを展示します。

問合せ

産業部 循環政策課 電話 672-2111(内線3512・3513)

Eメール junkan@town.shiwa.iwate.jp

この事業は、全国モーターボート競走施行者協議会からの助成を受けて実施しています。

新校舎の端材を使って
国際交流

星山小学校の児童と保護者は、新校舎建築の際に出た大量の端材を利用して木製品づくりに挑戦し、出来上がった巣箱や壁掛け、コースターなどの作品の一部を、ベトナムチャビン省フーカンB小学校に寄贈しました。



端材で作った巣箱

同校は、アジアの学校建設と学校間の国際交流事業を行っている「アジア教育友好協会(AEF A)」の紹介で昨年八月二十九日に協定を結んだフレンドシップ校です。
作品を贈ったのは昨年十二月末で、クリスマスが近いことからサンタクロースやトナカイなどが描かれており、フーカンB小学校の児童にとって、楽しいクリスマスプレゼントになったことでしょう。



自分たちが作ったコースターをベトナムの小学生に贈りました

歳末に多くの善意が贈られました。

年の瀬を迎えた12月、町内外の団体から、町の福祉施設などにさまざまな形で援助の手が差し延べられました。

12/19
〈火〉

岩手中央農協紫波地域青年部と女性部では、歳末助け合い運動の一環として、町内福祉

施設にモチ米百キログラムを寄贈しました。町福祉センターで行われた贈呈式には、同青年部長の高橋靖勝さんと、女性部長の熊谷富民子さんのお二人が訪れ、町社会福祉協議会阿部信男会長に袋に入ったモチ米を手渡しました。贈られたモチ米は、町内福祉施設のけやき学園、さくら製作所、宅老所えんどり、紫波さふり、同協議会デイサービスに分けられます。この取り組みは、昭和五十二年から続けられており、今年で二十九回目を迎えます。



左から阿部会長、熊谷さん、高橋さん

12/20
〈水〉

岩手日報紫波広華会では、社会福祉のために役立ててほしいとして現金七二、八四六

円を町に寄付しました。この寄付金は、十二月二日に中央公民館で行われた「チヤリティー北東北民謡収穫祭」の来場者からの募金で、同広華会の横沢大造会長と大野晴久副会長が町長室を訪れ、「民謡文化を守りながら、引き続き募金活動を行って参りたい」とあいさつし、町長に手渡しました。この募金活動は今年で三十八回目となります。



左から横沢会長、大野副会長、藤原町長

12/21
〈木〉

紫波総合高校（武田俣校長 全校生徒六百五十九人）では、ライブデザイン系列の保育

を学ぶ二年生（三十人）が、福祉児童施設NPO紫波さふりの子どもたちにクリスマスプレゼントを贈りました。同校では、毎週一回、家庭科の授業で同施設を実習の場としており、そのお礼の気持ちを込めて初めて行いました。生徒の代表六人が施設を訪れ、みんなで手作りの壁飾りやリースと、この日のために修学旅行先から買ってきたお菓子を手渡しました。



手作りの壁飾りを子どもたちに見せる紫波総合高校の生徒

12/22
〈金〉

（株）テレビ岩手では、テレビ番組「愛は地球を救う」の募金で購入した

スロープ付軽自動車を福祉児童施設NPO紫波さふりに寄贈しました。同社石井修平専務が同施設を訪れ、代表の細川恵子さんに引き渡しました。

町内施設への寄贈は今回で五台目、平成四年と十七年に社会福祉協議会が、十二年に百寿の郷が、十五年に宅老所えんどりがそれぞれ贈られています。



細川代表（右）に鍵のレプリカを手渡す石井専務（左）

2007



11/29

とんとん紫波豚肉の日

J Aいわて中央養豚部会(阿部秀夫会長)は、11月29日(日)にちなみ、豚肉二〇キログラム(四頭分)を学校給食用食材として提供しました。この日は、同部会役員やJA理事らが、安全安心な生産者の顔が見える食材を子どもたちにも知ってもらうため、町内四校に出向いて試食会を行いました。会場の一つ上平沢小学校では、三年生の教室に阿部会長とJAいわて中央の藤尾東泉代表理事専務ら関係者が訪れ、豚肉入りの給食と一緒に味わいました。

子どもたちからは、「やわらかくておいしい」という声が上がリ、阿部会長は、「地元の子どもたちに食べさせたいと思っていました。養豚業に理解を示してもらいたいし、おいしいの言葉が一番励みになります」と満足した様子でした。

町では昨年から学校給食への町内産食材の使用を増やし、現在、米が百パーセント、野菜・果物類が約三十パーセントの供給となっています。



児童に説明する阿部会長



当日のメニュー



おいしそうに食べる上平沢小の児童と藤尾代表理事専務

12/4

陸上競技場の冬支度 今年も紫波二中が奉仕

紫波第二中学校(藤澤浩二校長)の全校生徒百九十六人が、町への奉仕活動として今年も町総合運動公園陸上競技場の冬支度作業を行いました。この作業は古い消防用ホースをラインの上に覆いかぶせ、霜による浮き上がりを防止するために毎年行っています。冷たい風が吹く中、大変ご苦労さまでした。



寒い中、ラインをホースで覆う二中生

12/18

環境衛生に貢献 大臣表彰

志和地区の大沼啓之助さんは、このほど生活環境改善功労者として、環境大臣表彰を受賞しました。大沼さんは、紫波町衛生処理組合連合会長として長年、町の環境衛生や環境美化活動の普及に力を入れ、ごみ問題を社会問題として、ごみの減量やリサイクルに対する意識啓発に尽力されました。行政区长、衛生区長時代には、環境美化運動を積極的に実践し、さらに、ごみ集積所の整備促進や滝名川の清掃、花いっぱい運動など生活環境保全に対し、幅広く活躍されました。



町長室での伝達式の様子

12/20

赤石「興村之礎」移設

こうそんのいしづえ

赤石興村会が管理する「興村之礎」が、岩手中央農協赤石支所倉庫跡地に移設され、関係者により落成祝賀会が行われました。

この石碑は、旧赤石村が干ばつ被害の絶えなかった同地区に当時としては画期的な北上川電気揚水事業を完成させ、その記念に昭和十一年十月、当時の石黒英彦県知事の揮毫により村役場敷地内（現在の農協赤石支所）に建立されたもので、現在整備中の土地区画整理事業で道路敷地となるため、日詰駅前地区の公園予定地に移設されました。



移設された興村之礎

12/26

ドーハ銀メダリストが同時に来町

昨年十二月にカタールの首都ドーハで開催された第十五回アジア競技大会において、銀メダルに輝いた二人の選手が町を訪れました。

女子ホッケー日本代表選手の銀メダリスト小沢みさきさん（富士大学三年）は、元日本代表選手の岩館直也先生（不來方高校ホッケー部監督）と共に、町体育協会主催の中三スポーツ教室に講師として招かれ、集まった町内の中学生十八人にホッケーの楽しさを教えました。

また、自転車男子二〇〇メートルタイムトライアルで同じく銀メダルを獲得した及川裕奨さん（日本競輪選手会）は、県自転車競技連盟会長の藤原町長に大会報告するために来町しました。及川さんは、高校時代から町の自転車競技場でも練習しており、現在も北京オリンピックを目指して毎月二回以上は訪れるそうです。



町長室に訪れた及川選手（左から二人目）



ホッケーの楽しさを教えた岩館先生と小沢選手（後列中央）

12/26

消防車両を更新

町消防団第六分団第一部（片寄）の消防小型ポンプ積載車を更新しました。交付式では、団本部や地元団員、紫波消防署長など二十一人が見守る中、町長から大沼団長に鍵が手渡されました。購入価格八八七・三万円、荷台に積載している小型ポンプは取り外して運搬できる仕組みで車載のままでも使用できる両用タイプです。旧車両は昭和六十年式で二十二年十一月間使用しました。



新しい消防車と交付式に出席した皆さん

1/5

身を切る寒さの中 厳粛な裸参り

五元日祭の裸参りが志和八幡宮で行われました。雪は無いものの身を切るような寒さの中、志和八幡宮氏子青年会の奉納者十八人が無病息災を願い参拝しました。

境内には、藩政時代から受け継がれる光景を一目見ようと約二百人の参拝者が詰めかけ、厳粛な姿を見守りました。

裸参りの後にはミカンまきが行われ、福神と交換できる赤い布に包まれたミカンを拾い上げた高橋久祐さんは、「正月から縁起がいいです」とうれしそうでした。



まだ暗い早朝、大きな狭みと鐘の音が幻想的

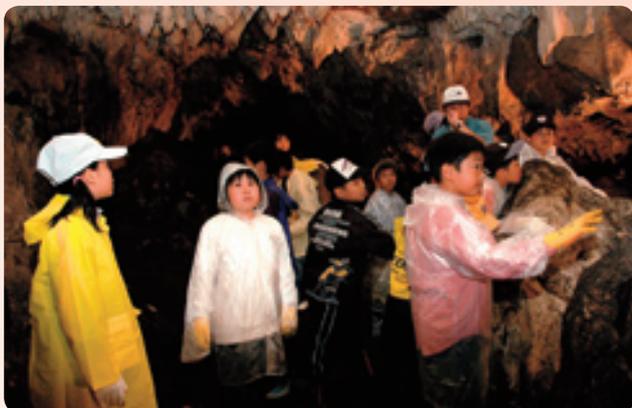
Go!Go!公民館

各地区の公民館指導員がシリーズで公民館情報をお伝えします。

赤沢公民館

田村幸子指導員から

問合せ 676-3036 有線 06-7952



地元の鍾乳洞に初めて入った子どもたち

～赤沢の歴史と文化を知ろう!～

昨年4月、赤沢公民館前に「赤沢郷土資料館」がオープンしました。これを機に赤沢に古くから伝わっている歴史、伝統、文化財などを見て触れて体験できる「赤沢の伝統文化体験教室」を開きました。参加した親子らは、砂金取りや縄文土器の発掘などを体験し、「すごい!」「知らなかった」と、感動の声を上げていました。舟久保の鍾乳洞ではコウモリに遭遇するなどスリルも満点。郷土資料館では、説明を受けながら昔の農具や生活道具などを見学し、赤沢の歴史や文化を知ることができました。



後期の教室では、昨年から織物教室を始めました。笑いが飛び交い、楽しい雰囲気の中で作品が作られ、出来上がると、喜びと満足感で「やってよかった!」「楽しかった!」と大変好評でした。

果樹農産地の赤沢は一年中忙しく、地域の人たちがチョットの息抜き? 気分転換? が、出来たらいいかなと思います。作品は、2月の公民館祭りに展示し、皆さんに披露します。

赤沢公民館では、皆さんの「やってみたい!」「チャレンジ!」をお待ちしています。少人数でもお気軽に声を掛けていただきたいと思います。

山内玲子指導員から

問合せ 676-3999 有線 04-6161

赤石公民館



～年齢や地域を越えたふれあいがあります～

赤石公民館には15の講座があって、多くの地区の皆さんが参加しています。講座のほかにも各種行事や子供会など、昼夜を問わず利用されております。その一つ、「なかよしひろば」では、子育てを終えた人たちと若いお母さんのふれあいがあります。また、「ゆうごう学習」では、中学生と大人と一緒に講座を受講し、年齢、地域を越えたふれあいの場になっています。

そのほか、新しく赤石地区に引っ越してきた人が、地域を知る手がかりに利用されることもあります。このような年齢や地域を越えた交流は、公民館の目的の1つでもあり、この先ますます求められるのではないのでしょうか。

さらに先日、絵手紙講座を受講するため、北海道の亀田中学校の生徒さんたちが訪れました。インターネットを通じて内容を知り、修学旅行の体験学習として同講座を選んだということでした。迎え入れるときは緊張しましたが、会話を楽しみながら一緒に作っているうちに爽やかな気持ちになり、ふれあうことの楽しさが体験できた出来事でした。今後もますます皆さんに活用される公民館として進めていきたいと思っています。



北海道の中学生が絵手紙講座に特別参加しました

家庭で実践!ノロウイルス予防策

重要 1 手洗いの徹底 せっけんで十分に泡立て、よく洗い流す。(調理前・食事前・トイレ使用后)
(せっけんや消毒用エタノールではウイルスの感染力を奪えないが、せっけんを使うことで手指からはがれやすくする)

重要 2 外出時のマスクの使用と帰宅後のうがい

重要 3 食品を85度以上1分間以上の加熱をすることでウイルスは感染力を失う

重要 4 調理器具は、生ものと生野菜用に分別し使い分ける
調理器具は、しっかり洗浄し、塩素系漂白剤で消毒する

重要 5 突然のおう吐物や便の処理には、使い捨てマスク・手袋を着用し、ペーパータオルなどでふき取り、ビニール袋に入れ、その中に0.1%に薄めた次亜塩素酸ナトリウム(漂白剤)液を入れ、しっかり封をする。さらにビニール袋で2重に封をする。付着した床なども、次亜塩素酸ナトリウム(漂白剤)を含ませたタオルなどで約10分間浸す



石けんで指の間までしっかり洗い、きれいに洗い流すことが大切です

市販の消毒液

消毒薬品名	用途	濃度	消毒薬の量	水で薄めた量
次亜塩素酸ナトリウム 6%	家具・器具・物品の消毒	0.02%	5ml	1,500ml
	便・おう吐物で汚れた便座や床の消毒	0.1%		300ml
台所用漂白剤	家具・器具・物品の消毒	0.02%	キャップ1杯分 20ml	5リットル
	便・おう吐物で汚れた便座や床の消毒	0.1%	キャップ4杯分 100ml	5リットル

家庭用品で代替も

町の栄養士がお伝えします



「おからがんも」

おからは「うの花」、「きらず」ともいいます。豆乳をこしたときの絞りカスですが、食物繊維が凝縮しており、鉄分やカルシウムも豊富で、栄養価の高い食品です。どこか脇役のような存在のおからですが、忘れてはな

らない、日本の伝統食の一つです。

うの花煮をアレンジしました。ぜひ、作ってみてください。(栄養士:森川)



【材料】 4人分

おから 300g、鶏ひき肉 100g、にんじん 1/4本、ごぼう 1/6本、いんげん 3本、しいたけ 4枚、だし汁 300cc、酒 大さじ3、砂糖 大さじ2、しょうゆ 大さじ3、片栗粉 大さじ2、上新粉 適量、揚げ油

〈あんかけの材料〉

だし汁 100cc、酒 大さじ1、砂糖大さじ1/2、しょうゆ 大さじ1、しめじ 1/2パック、三つ葉 1/4束、片栗粉 少々

【作り方】

- 1 にんじん・ごぼうはささがきにし、しいたけ・いんげんは細かく刻む。
- 2 鍋に油を熱し、ひき肉・にんじん・ごぼう・しいたけを炒め、だし汁・酒・砂糖・しょうゆを加えて煮る。
- 3 いんげんを加え、煮えたら火からおろし冷ます。あら熱が取れたら、片栗粉を加え混ぜる。
- 4 12等分にし、形を整えて上新粉をつけ、油で色よく揚げる。

- 5 あんかけのあんは、だし汁・砂糖・酒・しょうゆ・しめじを煮立て、水溶き片栗粉を加えてトロミをつける。
- 6 器にがんもを盛り、あんをかけ、三つ葉を散らして出来上がり!

ポイント

がんもにかけるあんは、しょうが汁を加えたしょうがあん、酢を加えた甘酢あんにするとうろな味が楽しめます。

【レシピ提供】…紫波町食生活改善推進員協議会 赤沢地区会員 作山和子】

あらかじめ「農業経費」の集計を!

2月から始まる申告相談会を前に、白色申告用**農業経費の記載用紙**を次の各施設に設置します。

- 紫波地域営農センター
- 町内JA各支所、出張所

この記載用紙は、農業所得を算出する際に、収入と支出の計算を容易にするためのものです。

■申告相談の当日は、農業経費の集計をされていない人は、受付が後になる場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■記載用紙は、紫波町ホームページからもダウンロードできます。

紫波町役場ホームページTOP画面→ダウンロード→税務課、白色農業経費計算用紙

■問合せ 税務課 課税室 ☎672-2111
内線1222・1223 有線01-8912

町税口座振替領収済通知書の発行が年1回になります

これまで年2回(4~12月と1~3月)に分けて発行していた「町税口座振替領収済通知書」について、今年より次のとおり変更します。

- 発行時期: 1~12月分を翌年1月下旬に発行(年1回)
- 対象税目: 町県民税、軽自動車税、固定資産、国民健康保険税

納期ごとの引き落としについては金融機関の通帳記帳でご確認ください。

●問合せ 税務課納税室 ☎672-2111
内線1232、1233

募集 新春町民交流ツアー「南部藩と紫波を語る夕べ」

南部家第45代当主の南部利昭氏(現靖国神社宮司)を訪ねるツアーです。神社参拝後、遊就館を拝観し、夜は南部氏を交えて懇親会を行います。

- ◆期 日 2月6日(火)~7日(水) 新幹線利用1泊2日
- ◆費 用 45,000円(宿泊・食事・懇親会込み)
- ◆募集定員 先着30人
- ◆申込・問合せ 紫波町観光交流協会
☎676-4477 FAX671-1756
電子メールshiwa-kanko@chime.ocn.ne.jp

銀河系いわてモニター募集

県が依頼するアンケートに答えていただくモニターを募集します。

■応募方法 郵便番号、住所、氏名、ふりがな、性別、生年月日、電話番号、電子メールアドレス(お持ちの人のみ)、各種モニター経験がある人はその名称と年度を明記の上、官製はがき、ファクシミリ、電子メールで応募してください。

■申込・問合せ 2月15日(木) 午後5時到着まで
〒020-8570 (住所不要)
県総合政策室広聴広報課
銀河系いわてモニター募集係
FAX651-4865
電子メール koucho@pref.iwate.jp

北方領土パネル展

北方領土の歴史、概要、現況、返還運動の経緯などを分かりやすくパネルで解説します。

- 期 間 1月30日(火)~2月7日(水)
- 会 場 盛岡市中央公民館 2/6まで
県民会館 2/7のみ北方領土返還要求県大会(午後1時30分~、無料)と同時間開催
- 問合せ 北方領土返還要求運動岩手県民会議事務局 県地域振興部NPO・国際課内
☎629-5338

ヘルスサポーター養成講座受講者募集

自分の生活習慣を見直し、日常生活の中で健康づくりを実践する人を募集します。受講者には、「ヘルスサポーター21」の登録証を交付します。

- 日 時 2月1日(木) 午前9時40分~午後2時
- 会 場 中央公民館 2階 和室と実習室
- 対 象 成人(定員20人)
- 内 容 講義、BMI・体脂肪チェック、塩分測定、リフレッシュ体操、食生活改善推進員のオススメ健康食調理実習
- 持ち物 家庭のみそ汁(汁のみ)100cc程度をタッパーやびんに入れて持参してください。
- 申込・問合せ 1月25日(木)まで
食生活改善推進員協議会事務局
(長寿健康課 健康推進室内)
☎672-4522 有線01-8991

冬場の健康づくりのご案内

元気づくり大会

楽しいお話と軽体操による健康づくりです。ご家族やお友達、お誘いあわせてお出かけください。

- 日 時 1月27日(土) 午前9時30分～11時
- 会 場 総合体育館 参加無料
上履きズック、タオルをご持参ください。
- 講 師 岩手県レクリエーション協会 小島勝子氏
- 申 込 1月23日(木)までに保健センターへ

雪中ウォーク大会

恒例の雪中エクササイズで健康づくり

- ◆日 時 2月3日(土) 午前9時10分～正午
- ◆会 場 ラ・フランス温泉館交流プラザ集合
東根山麓約4kmのコース
- ◆定 員 100人
- ◆参加料 600円(昼食代)当日集金
飲料水、長ぐつ、タオルをご持参ください。
- ◆申 込 2月1日(木)までに保健センターへ

問合せ 保健センター ☎672-4522

紫波町国民保護計画案の意見を公募します

国民保護計画は、外国またはテロなどから武力攻撃を受けた場合、住民の生命、身体を保護するための計画です。

計画を作成するため、案を次のとおり備えておりますので、意見のある人は、ファックス、手紙または電子メールでお送りください。電話での受付はいたしません。

計画案の備え付け場所は、町内の各地区公民館と紫波町ホームページに掲載しています。

- ◆募集期間 1月18日(木)～31日(水)
- ◆送 付 先 〒020-3390
紫波町日詰字西裏23-1
総務課 ☎672-2311
電子メール soumu@town.shiwa.iwate.jp
- ◆問 合 せ 総務課 消防安全室 ☎672-6869

屋根の雪降ろしは、命綱を着けて!

昨年は豪雪の影響もあり、雪降ろし作業中に転落するなどして、5人が重軽傷を負っています。事故防止のため、屋根の雪降ろしをするときは、必ず「命綱」を付けるか、専門業者などに依頼しましょう。

- ◆問合せ 総務課 消防安全室
☎672-6869



平成19年度 「こどもの家」使用希望者受付

共働きなどで下校時に留守になる家庭の児童を預かる「こどもの家」(日詰・古館・赤石・星山)の使用希望者を受け付けます。

- 対象児童 小学生(おおむね3年生まで)
- 使用時間 月～金は下校時～午後6時まで
土曜日・長期休みは午前8時30分～午後6時
- 使用料 月額 2,100円(おやつ代別)
- 受付期間 2月5日(月)～19日(月)

※申し込みに必要な用紙は福祉課でお渡します。

※就労証明書などの添付が必要です。

- 申込・問合せ 福祉課 子育て支援室
☎672-2111 内線1533
有線01-8921

向学心あふれる学生を支援 紫波町育英会奨学生を募集

4月に高等学校、高等専門学校、専修学校(専門課程に限る)、短期大学、大学に進学し、紫波町育英会の奨学金を希望する人は、早目に現在の学校と相談し、次の書類を提出してください。また、現在在学中の奨学生希望者も同様です。

- ◆申請書類(各1部) ①奨学生願書 ②奨学生推薦調書(3月まで在学した学校で作成) ③戸籍抄本(出願者本人のもの) ④所得証明書(同一世帯内で学生を除く全員分) ⑤資産証明書 ⑥在学証明書(4月から在学する学校で発行)

- ◆提出期限 4月6日(金)まで

- ◆採用決定 4月下旬ごろ(採用、不採用にかかわらず通知します)

- ◆奨学金の月額 高等学校2万円(県外3万円) / 高等専門学校3万円 / 専修学校3万円 / 短期大学3万円(県外4万円) / 大学3万円(県外4万円)

- ◆奨学金の返還 卒業後、在学した学校の修学年限の2倍に相当する期間(例:4年制大学の場合8年間)以内に返還。ただし、高等学校および大学を通じて貸与を受けた場合は、10年以内の期間とします。(期間内無利息、期間超過の場合延滞金あり)

- ◆問合せ 教育委員会 学務課 ☎672-3362
有線01-8941

※詳しい内容のしおりや申請書類をさし上げます。

行ってみよう

ゆいっとサロンは

誰でも

ちよつぴり変わる

きつかけづくりの場



開所式で町長直筆の看板を手にするスタッフの皆さん



サロンで情報交換の様子。気軽に話して解決の糸口を探そう。



葬式を地域の人たちはどう考えているのか、コミュニティについて情報を集めに訪れたお二人。

役場庁舎の南側に職業訓練協会や会議室などで利用されている別館があります。その二階に昨年十一月一日に「ゆいっとサロン」がオープンしました。自由な情報交換を目指した「井戸端会議」を開催するなど、開所以来二百人以上が訪れ、にぎわいを見せています。

ゆいっとサロンは、サークル活動団体、ボランティア団体などのコミュニティ団体で活動する町民が自由につながり、情報発信するこ

とで、仲間づくりや情報交換を行う場です。また、何か行動を起こしたいけれどもやり方が分からない、役場に相談するまでではないけれども気になっていることがあるといったときに、町民や団体と役場の仲介役を行います。

運営するのは、学社ゆうこう支援グループ「えんのした」のメンバーです。「えんのした」は、小中学校の総合学習授業や土曜開放日などで、地域の人と学校を結びつ

【ゆいっとサロン】

- 開設日時
月曜日～金曜日 午後2時～6時
(土、日曜日、祝日は休み)
日詰字西裏23-1 役場庁舎裏
庁舎別館2階
- 電話・FAX **672-6912**
- ホームページ
<http://yuittosaron.blog78.fc2.com>
- 電子メール
yuito@town.shiwa.iwate.jp

けながら「まちづくり」を行っている団体です。

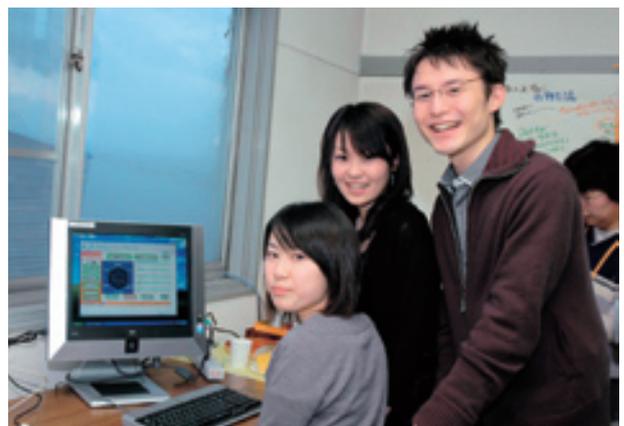
代表の中田芳子さんは、「ゆいっとサロンは明確な利用のきまりがなく、利用する皆さんが形作っていく場所です。個人の問題と想っていたことが、みんなの課題であることも多いのです。気軽に来ていただいで、お茶でも飲みながらお話しすれば、きつと何かヒントが生まれてくるでしょう」と呼びかけています。

先月、コミュニティの研究をしている大学生二人が、すこやか号を体験するために訪れたそうです。実際に乗ってみた二人は、高齢者の皆さんが和やかに会話する様子にこのバスの良さを感じたようでした。お年寄りが多いことから若者が乗り降りに手を貸したり、日常の話題で交流したりできる「乗ってみたバス」にしていきたいと思つたそうです。一つの話題が公共的な課題として広がりました。

「ゆいっとサロン」は、人と人をつなぐピタミンやミネラルのような役割です。皆さんもどんなところか一度お茶飲みがてら、出かけてみてはいかがでしょう。



会話から出た言葉の要点を書き並べ、全体像をイメージしながら感覚的に物事をとらえます。



健康管理システム「結いネット」実証事業のために訪れた県立大生